

赤平市の子どもたちの学力・生活習慣の向上に向けて

～平成27年度全国学力・学習状況調査の結果報告～

平成27年11月
赤平市教育委員会

本年4月、小学校6年生及び中学校3年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査」の結果の概要をお伝えします。

赤平市教育委員会では、この調査結果から、市内の児童・生徒の生活面・学習面の傾向をとらえ、教育施策の一層の充実をはかります。地域ならびに保護者の皆様には、ご家庭での生活習慣及び家庭学習の充実に向け、学校と連携したご協力をお願いいたします。

なお、この調査は学力の一部をはかるものであり、学力の全てをはかるものでないことをご理解ください。

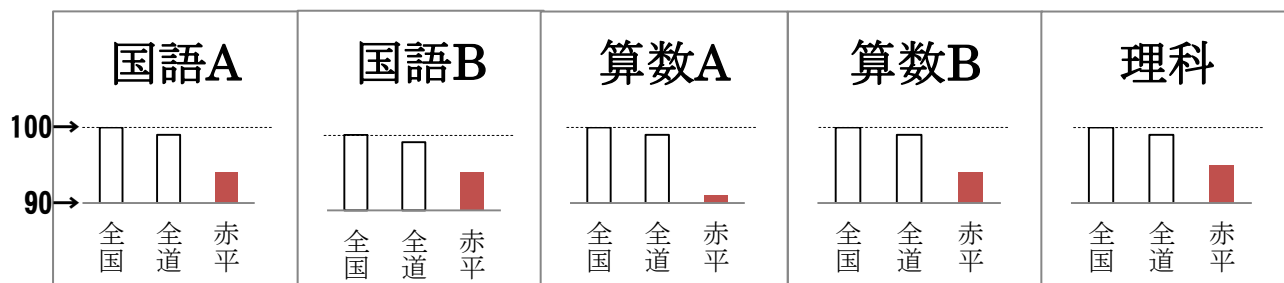
【1. 学力の状況】

A問題：主として「知識」に関する問題（身につけておくべき基礎的な知識や技能）

B問題：主として「活用」に関する問題（知識や技能を実生活の場に活用する能力）

小学校

各教科とも全国・全道と比べ正答率が低く、学力の定着に課題が見られます。



※グラフ～全国の平均正答率を基準(100)に、それぞれ比較して示したもの

国語A

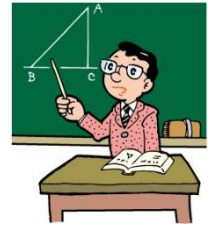
- 漢字を読むことは概ねできる。
- 文中の主語や引用している言葉を書きぬくことはできる。
- ▲漢字を書くことができない。
- ▲文を構成する主語と述語との関係をとらえることができない。

国語B

- 目的や意図に応じ、新聞の記事の割り付けができる。
- ▲目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉える事ができない。
- ▲文章と図とを関係づけて自分の考えを書くことができない。

算数 A

- 繰り上がりのある2位数の加法の計算ができる。
- 示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を選択することができる。
- ▲小数の大きさや計算、確かめの方法がわからない。
- ▲除数が整数である場合の分数の除法の計算ができない。
- ▲異分母の分数の減法の計算ができない。
- ▲式で表現された数量の関係を図と関連付けて理解することができない。
- ▲日常生活の中で必要となる時刻を求めることができない。
- ▲分度器を用いて 180° よりも大きな角を求めることができない。
- ▲グラフに表されている事柄を読み取ることができない。
- ▲見取図と展開図を関連付けて、立体図形の辺や面の位置関係を理解することができない。



算数 B

- 平行四辺形の作図の方法に用いられる図形の約束や性質を理解している。
- 平行四辺形の性質をもとに、平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを理解している。
- ▲単位数量当たりの大きさを用いて、目的に応じた買い物のし方を選択し、代金を求めることができない。

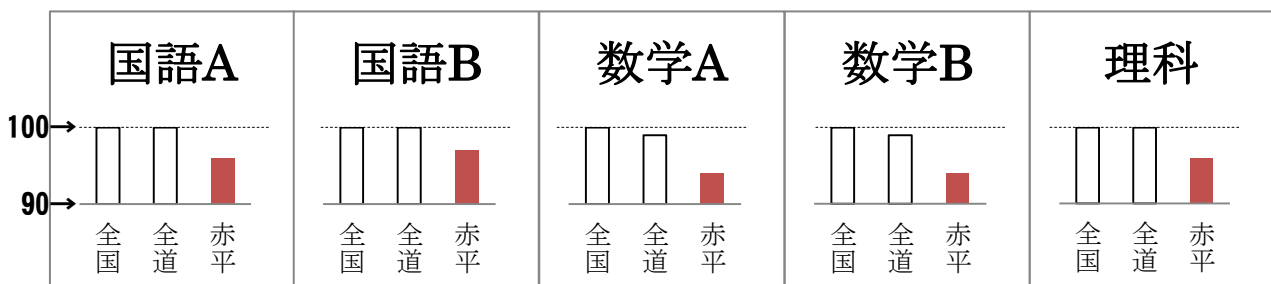
理科

- 示された器具の名称を書くことができる。
- 顕微鏡の適切な操作方法がわかる。
- 星座の動きを理解できる。
- ▲水の温まり方を実験の結果をもとに考察することができない。
- ▲振り子の運動の規則性や実験の条件を調整することができない。
- ▲植物の成長に適した条件や栽培場所、成長の記録を記述できない。
- ▲方位を判断するための情報を考察することができない。

読むこと、書くこと、計算力などの基礎的な内容の未定着が課題です。

中学校

各教科とも全国・全道と比べ正答率が低く、学力の定着に課題が見られます。



※グラフ～全国の平均正答率を基準(100)に、それぞれ比較して示したもの

国語A

- 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することができる。
- 登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解することができる。
- ◎伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことができる。
- 表現技法について理解することができる。
- ◎語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができる。
- 文脈に則して漢字を正しく読むことができる。
- ▲文脈に則して漢字を正しく書くことができない。
- ▲意味を支える根拠を明確に示すことができない。
- ▲目的に応じて要旨を捉えたり、その表現の特徴を捉えることができない。

国語B

- ◎文章の構成や展開等を踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書くことができる。
- 目的に応じて文章を要約することができる。
- ▲表現の工夫について自分の考えをもつことができない。
- ▲文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け、要旨を捉えることができない。

数学A

- 加減乗除を含む正の数と負の数の計算ができる。
- 直角三角形の斜線を軸とする回転によってつくられる空間図形の形がわかる。
- 空間における直線と平面の垂直について理解できる。
- ▲等式を目的に応じて変形することができない。
- ▲方程式の性質を用いて方程式を解くことができない。
- ▲平行移動した図形を書くことができない。
- ▲与えられた式を用いて体積を求めることができる立体を理解していない。
- ▲多角形の内角の和の性質を理解していない。
- ▲ひし形の「対角線は直角に交わる」という性質を、記号を用いた表現から読み取ることができない。
- ▲作図の根拠として用いられる平行四辺形になるための条件を理解していない。
- ▲反比例のグラフを理解していない。
- ▲二元一次方程式とグラフの関係性を理解していない。
- ▲与えられた資料から中央値を求めることができない。
- ▲さいころを投げるときの確立について理解していない。

数学B

- おうぎ形の中心角と半径の長さや弧の長さとの関係が分かる。
- ▲投影距離と投影画面の高さの関係を表すことができる。
- ▲連続する3つの整数の和が中央の整数の3倍になることを説明することができない。
- ▲平面図形と空間図形を関連付けて考察し、その特徴を捉えることができない。
- ▲円錐形の体積を求めることができ、その方法を説明することができない。

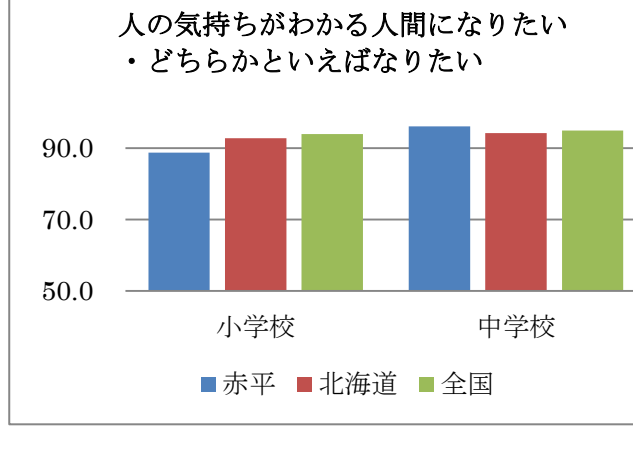
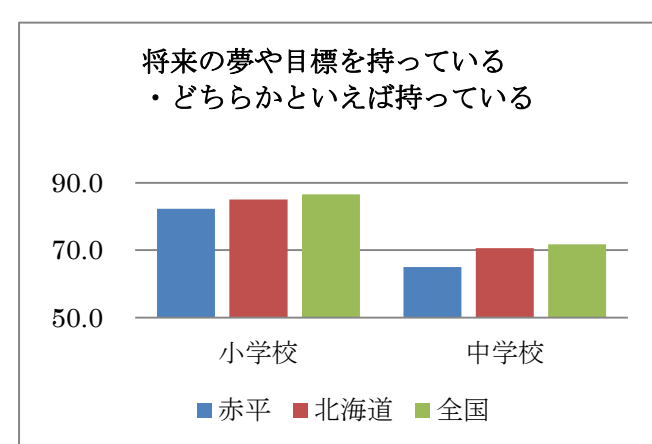
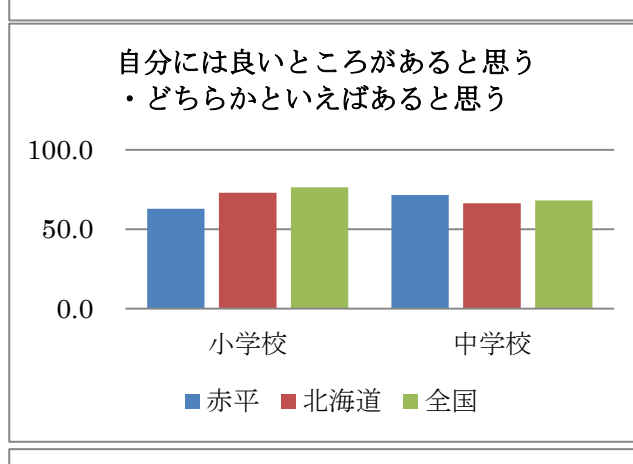
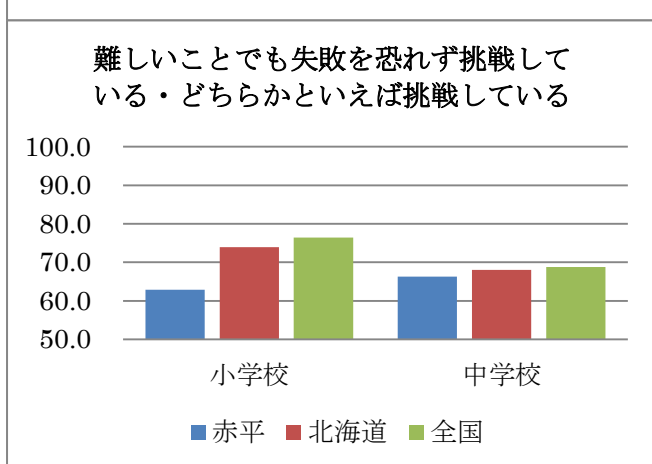
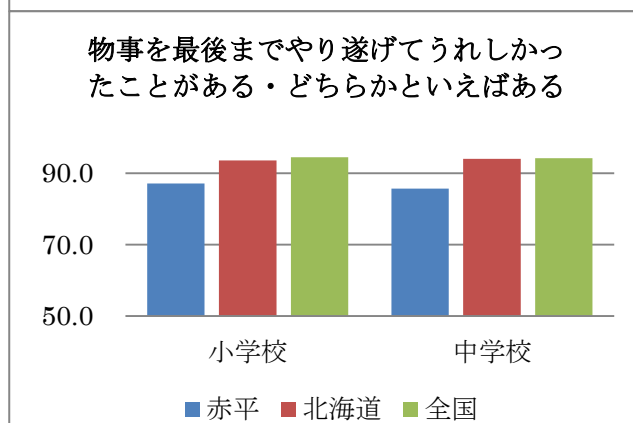
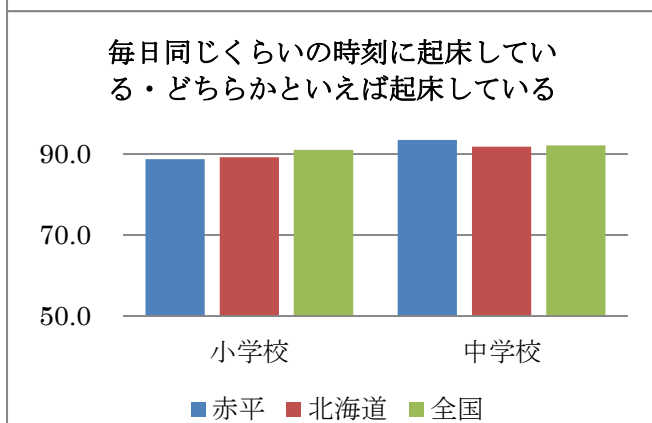
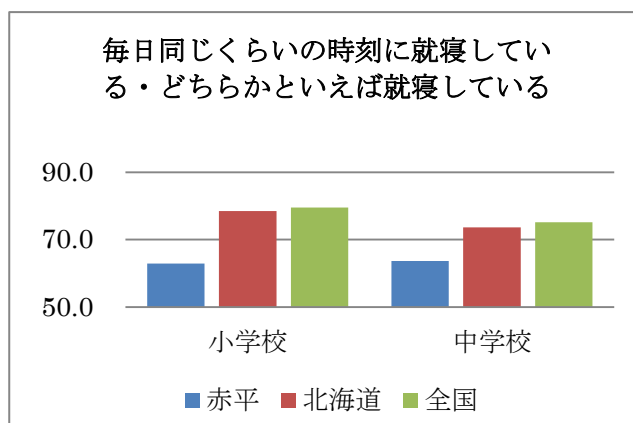
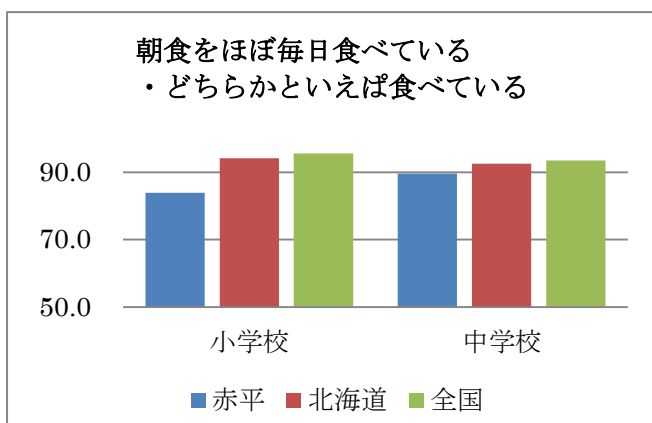
理科

- ◎塩化ナトリウムの化学式を書くことができる。
- ◎天気図から風力・風向を読み取ることができる。
- ◎葉子袋のふくらみから気圧の変化を推論することができる。
- ◎オームの法則を使って抵抗値を求めることができる。
- 音の波形を比較し音の高さを比較できる。
- ▲水溶液の濃度の計算ができない。
- ▲炭酸水素ナトリウムの性質や用途がわからない。
- ▲混合物の過熱による化学変化の説明を選択することができない。
- ▲温暖前線の性質を気団の性質から説明することができない。
- ▲課題に対して適切な考察になるよう修正することができない。

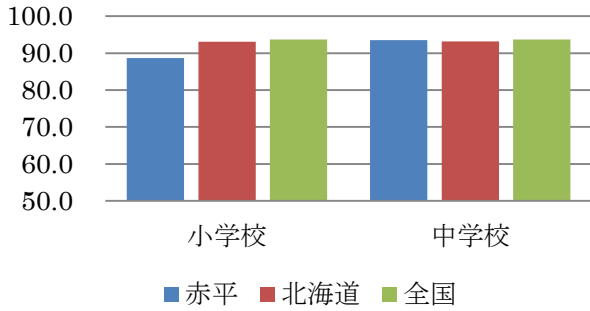
読解力、計算力、グラフの読み取りなどの基礎的な内容の未定着が課題です。

【2. 「児童・生徒質問紙調査」から（抜粋）】

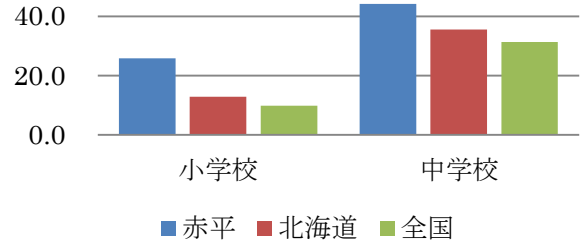
※グラフの数値は(%)を示しています。



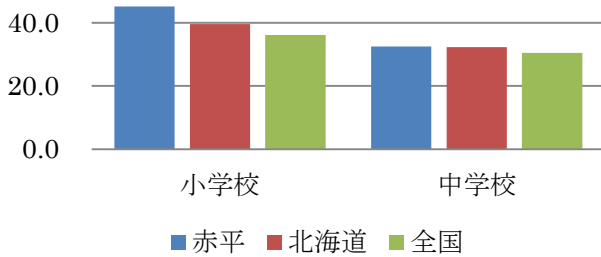
人の役に立つ人間になりたいと思う・
どちらかといえばそう思う



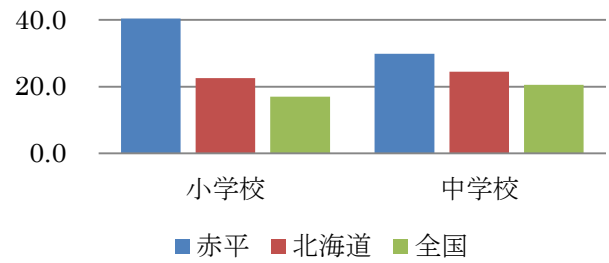
平日、一日あたりにスマートフォン
等やインターネットの利用時間が2
時間以上



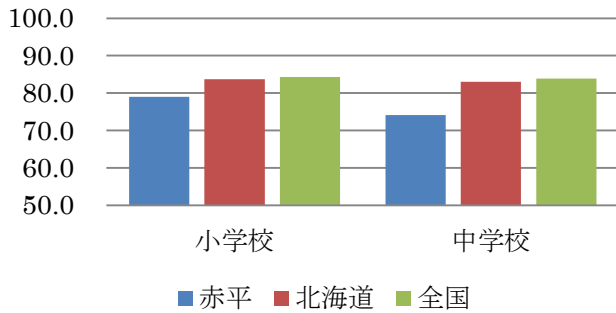
平日1日当たりのテレビ・DVD等
の視聴時間が3時間以上



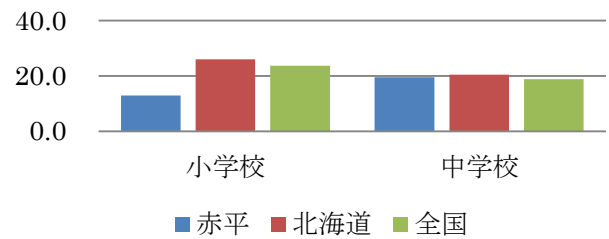
平日1日当たりのゲームの時間が3時
間以上



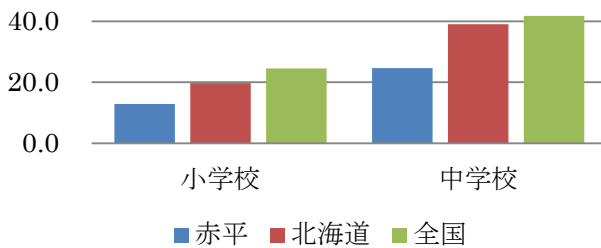
ニュースを良く見る・時々見る



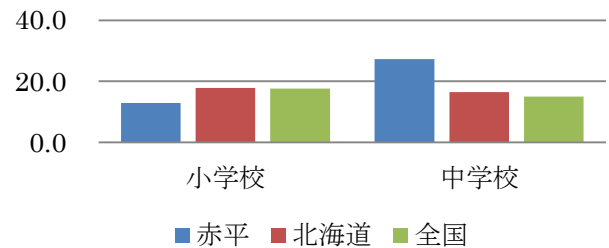
新聞を毎日もしくは週に1~3回読
んでいる

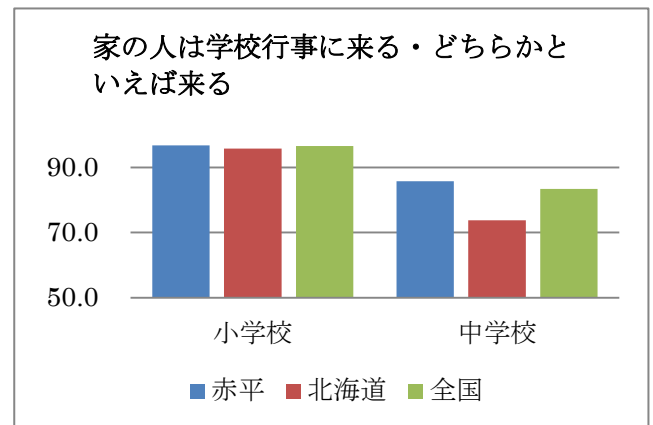
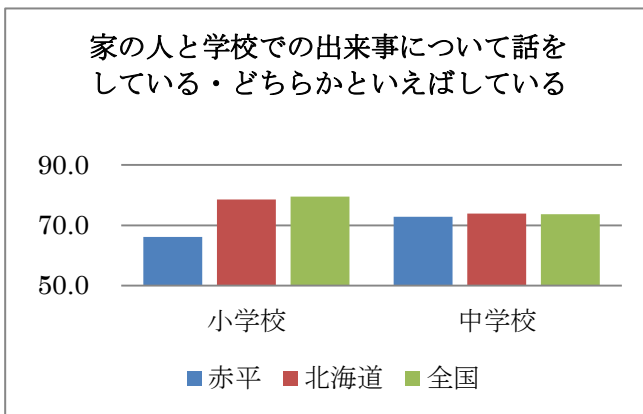
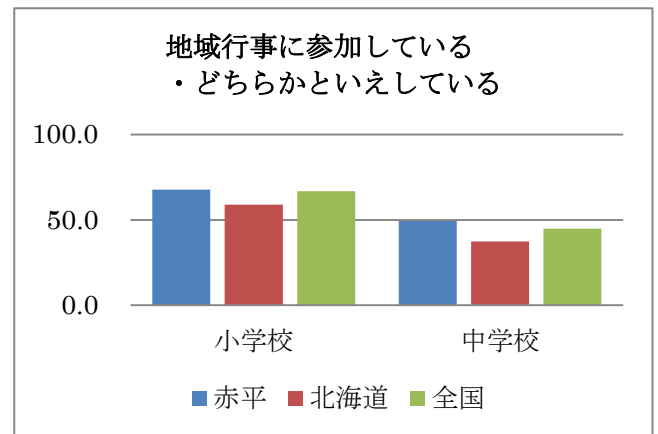
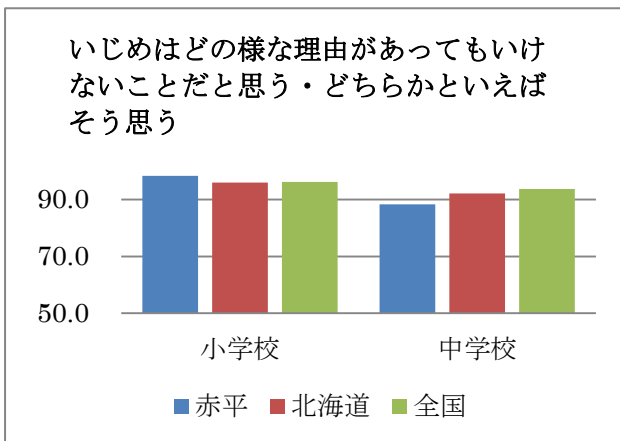
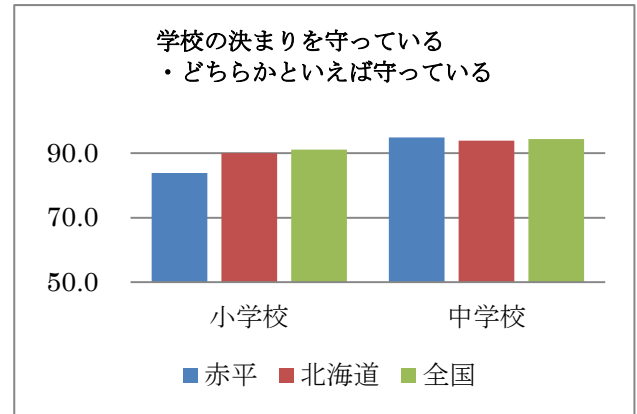
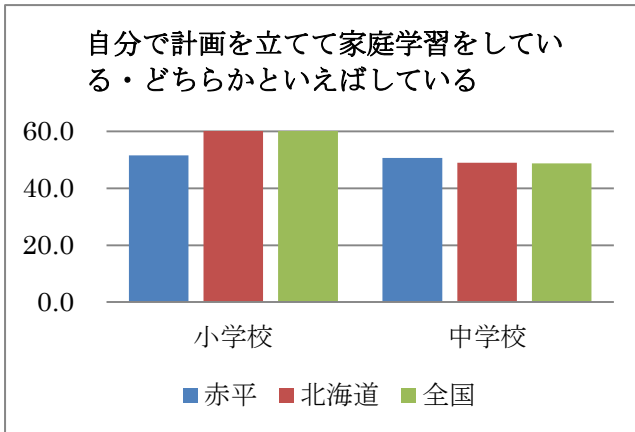


休日1日当たりの家庭学習時間が1時
間以上(塾・家庭教師を含む)



平日1日当たりの読書の時間が1時間
以上(教科書・マンガ・雑誌は除く)





- 朝食、就寝、起床時間などの基本的な生活習慣は、小中学校ともに概ね達成されていますが、北海道・全国に比べるとやや低い状況です。
- 自己肯定感は、小中学校共に概ね北海道・全国とほぼ同様の傾向が見られますが、成就感やチャレンジ精神はやや低い傾向が見られます。
- 将来への夢や目標も小中学校共に概ね北海道・全国とほぼ同様の傾向が見られますが、やや低い状況です。
- 思いやりや社会性については、小中学校共に概ね北海道・全国とほぼ同様の傾向が見られます。
- テレビ・DVDの視聴、ゲームやインターネットの利用時間は、小中学校共に北海道・全国に比べ長い傾向が見られます。

- 家庭学習の時間は、小中学校共に北海道・全国に比べ短い傾向が見られます。
- ニュースや新聞等、時事問題への関心は小中学校共に北海道・全国に比べ低い傾向が見られます。
- 一日当たりの家庭学習の時間は、小中学校共に北海道・全国に比べ少ない傾向が見られます。
- 読書の時間は北海道・全国に比べ小学校では少なく、中学校では多い傾向が見られます。
- 学校での決まりの順守は、小中学校ともに概ね達成されていますが、小学校では北海道・全国に比べるとやや低い状況です。
- いじめについては、小中学校共に概ね北海道・全国とほぼ同様の傾向が見られますが、中学校でやや低い傾向が見られます。
- 地域行事への参加は、小中学校共に北海道・全国に比べ参加する傾向が見られます。
- 保護者の学校への関心は、全国とほぼ同様の傾向が見られます。

これらのことから、地域保護者の教育への関心は北海道・全国同様に高いですが、家庭での生活では、ゲームやインターネット等の遊びの時間が長く、やや生活習慣を乱す要因となっています。また、家庭での学習時間が短いために、基礎的な学習内容の定着がおろそかになり、学年が上がるに従って内容がわからなくなる傾向が見られます。それが学習意欲の低下などに結びついていると推察されます。

【3.家庭地域へのお願い】

- ◎**家庭学習の大切さ**について、各小中学校で指導を行っています。学校で学んだことを確実に身につけるための復習をする時間やこれから学ぶことについて予習をする時間を心がけ、勉強する習慣づくりが大切です。



お子さまと、約束した時間に机に向かい勉強をする声かけや落ち着いて、勉強に集中できる学習環境へのご理解とご協力をお願いします。

- ◎**規則正しい生活習慣**が学力の向上には欠かせません。



テレビやゲームを楽しむ時間を決めること、携帯電話やスマートフォンでの通話やメールの時間やマナーなど、ご家庭でのルールづくりをお願いします。
(携帯やスマートフォンは子どものものでなく、親のものです。)

【4. 今後の取り組み】

教育委員会は、学校と連携して児童生徒の学力の向上に努めます。

☆今年度は以下の目標・重点を掲げ、取組ます☆

目標

教科に関する調査の全てのテストにおいて、北海道平均正答率に近づける。

重点

▶小学校

- 国語では「書くこと」の領域において、決められた字数で書く問題や漢字を正しく書く問題の正答率を向上させる。
- 小学校算数では「四則計算」等の基本的計算問題の正答率を向上させる。

▶中学校

- 中学校国語では「書くこと」の領域において、理由や根拠を明確にして書く問題や漢字を正しく書く問題の正答率を向上させる。
- 中学校数学では「数と式・関数」等の基本的計算問題の正答率を向上させる。

▶ご家庭で

- 早期に望ましい生活習慣を定着させ、家庭学習の定着と充実を図る。

○ どんなことをするの？

教育委員会は…

- ①赤平市基底教育課程を見直し、学校の指導計画や指導方法を改善させます。
- ②チャレンジテストなどの学力向上推進事業を全ての小中学校で行います。
- ③全国学力学習状況調査の結果と考察を公表します。
- ④標準学力検査(NRT)の実施で経年比較による個々の状況把握に努めます。
- ⑤巡回指導教員や少人数指導などを充実させ、児童生徒に応じた授業を行います。
- ⑥夏休み・冬休み・放課後などの個別指導を充実させます。
- ⑦小中学校での校内研修を充実させ教師の指導力・授業力の向上を図ります。
- ⑧道教委の地域の学力向上支援事業の全校での実施。
- ⑨家庭学習の手引などを作り、家庭学習の啓発に努めます。
- ⑩親学講座など社会教育と連携し、地域で子供を育てる環境づくりを進めます。

- ⑪学習支援員、学校支援ボランティアなどの学習環境の整備・充実に努めます。
- ⑫ICT教育(情報通信教育)の整備・充実に努めます。
- ⑬小学校と中学校の連携を強め学びの連続性の確保に努めます。
- ⑭読書活動の充実に努めます。
- ⑮ALT派遣による外国語活動の支援を続けます。

学校は…

- ①上記の教育委員会の取組を行い児童生徒の学力の向上に努めます。
 - ・ほっかいどう学力向上推進事業を計画的に進めます。
 - ・基礎・基本の定着を図る学習指導を充実させます。
 - ・教師力を高める校内研修の充実に努めます。
 - ・家庭での生活習慣や学習習慣の呼びかけを充実させます。

※各小中学校の取組については、学校だよりなどでお知らせいたします。

赤平市の子供達の健やかな成長と子供の明るい未来のために、

地域をあげて学校へのご支援をお願いします。

